

# 103-282

## 問題文

2歳男児。夕方に発熱があり、同時に痙れんが起ったので近所の小児科を受診した。その後、母親が処方箋を薬局に持参した。その処方内容は以下のとおりであった。

(処方1)

アセトアミノフェン坐剤 100 mg    1回1個  
発熱時    6回分(全6個)

(処方2)

ジアゼパム坐剤 4 mg    1回1個  
発熱時    4回分(全4個)

〔注：アセトアミノフェン坐剤の基剤：ハードファット〕  
      ジアゼパム坐剤の基剤：マクロゴール〕

## 問282

薬剤師が坐剤の使用経験を確認したところ、坐剤の併用は初めてとのことであった。そこで、この2種類の坐剤の併用方法について説明した。その内容として適切なのはどれか。1つ選べ。

1. アセトアミノフェン坐剤を先に挿入し、熱が下がってからジアゼパム坐剤を挿入してください。
2. ジアゼパム坐剤を先に挿入し、3～5分ほどしてからアセトアミノフェン坐剤を挿入してください。
3. アセトアミノフェン坐剤を先に挿入し、3～5分ほどしてからジアゼパム坐剤を挿入してください。
4. ジアゼパム坐剤を先に挿入し、30分以上してからアセトアミノフェン坐剤を挿入してください。
5. アセトアミノフェン坐剤を先に挿入し、30分以上してからジアゼパム坐剤を挿入してください。
6. アセトアミノフェン坐剤を挿入したら、直ちにジアゼパム坐剤を挿入してください。

## 問283

前問の投与順を選択した理由として適切なのはどれか。1つ選べ。

1. アセトアミノフェン坐剤とジアゼパム坐剤を同時に投与すると、直腸内で両主薬の溶解度が上昇し、吸収量が増加する。
2. アセトアミノフェン坐剤とジアゼパム坐剤を同時に投与すると、主薬間で不溶性の複合体を形成し、吸収量が減少する。
3. ジアゼパム坐剤を先に投与すると、アセトアミノフェンがマクロゴールに分配し、吸収量が減少する。
4. アセトアミノフェン坐剤を先に投与すると、ジアゼパムがハードファットに分配し、吸収量が減少する。
5. マクロゴールによってハードファットが不溶化し、アセトアミノフェンの溶出量が減少する。

## 解答

問282：4問283：4

## 解説

### 問282

問283 とまとめて解説します。

### 問283

アセトアミノフェンは解熱剤です。ジアゼパムは抗けいれん薬です。アルピニーとダイアップ坐剤等が処方されていた経験があるとイメージしやすいと思います。

ジアゼパムが脂溶性が高いため、アセトアミノフェンの基材であるハードファットに分布しないようにすることが求められます。（ちなみに、ジアゼパムの基材であるマクロゴールは水溶性基剤の代表例です。）

そのため、ジアゼパムを先に使用した上で、アセトアミノフェンは30分以上あけて使用するよう指導します。同時に投与したりアセトアミノフェンを先に投与すると、ジアゼパムがハードファットにまず分布してしまい、吸収量が減少したり薬効が現れるのが遅くなることが知られています。

以上より、問282の正解は4

問283の正解は4です。

類題